

日本生活体験学習学会地方セミナー

学校と生活体験

AI時代に身体を通して学ぶということ

2026年7月25日（土） 13:00-15:00

京都大学吉田キャンパス吉田南総合館 北棟 共北25 | オンライン併用

生成AIの普及や気候変動を背景に、教育は大きな変化を迎えています。生活体験は、身体を通したリアリティを得る体験であり、暮らしに根ざした学びの土壌として学校教育を問い直す重要な視点となりえます。本シンポジウムでは、**フリースクールと公立学校の双方の観点から、新たな時代の学びの多様化に即した創造的な議論の場**を設けます。

【シンポジスト】

大杉稔（学校教育／元大阪樟蔭女子大学教授）

広瀬悠三（教育哲学／京都大学准教授）

池田勝（環境教育／スキニシー学校代表）

【企画】山本一成（幼児教育／滋賀大学准教授）

事前申込制（先着順）／会場定員 50名／無料

※終了後、どなたでもご参加いただける交流会を予定しています

主催：スキニシー学校

共催：日本生活体験学習学会

京都大学大学院教育学研究科教育哲学研究室

登壇者プロフィール

SPEAKER PROFILES

話題提供

大杉 稔



滋賀大学教育学部附属小学校時代に始めた幼-小-中12年間を貫く学びの研究を、公立小に転じてからも続けた。附小時代には、生活科でヤギを飼ったり気球を上げたりして、「環境に働きかける」子どもの存在を常に感じ続けてきた。著書には『学ぶひきだし・教えるひきだし』（明治図書）など。

指定討論

広瀬 悠三



教育哲学・教育人間学の視点から、世界市民的教育や、地理的人間形成、教育関係における信頼、またオルタナティブ教育の理論と実践を研究する。近著にWorld Citizenship Education in Times of Crisis（共編著、J.B. Metzler, 2026年5月）、『幼児と児童の道徳教育の革新』（共著、新曜社、2025年1月）などがある。

話題提供

池田 勝



学生時の野外活動ボランティアを契機に、「自然体験型環境教育」で生きようになる。フリーランスとして幼稚園、小中学校、公民館、公園等で自然遊びや自然観察などを提供しつつ、非常勤講師や博物館職員など組織勤めも。2019年から自宅を開放し、森のようちえん代表のパートナーと共にスキニシー学校を運営。2026年4月に「フリースクール スキニシー学校の日々」を出版。

企画説明・司会

山本 一成



京都造形芸術大学こども芸術大学にて保育者として勤務後、「保育現場で起こる出来事の意味を言葉にする」ことを志し、臨床教育学の研究を行う。京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。主な著書に『生きているものどうしの想像力』（世織書房、日本保育学会保育学文献賞受賞）など。

【申し込み方法・会場アクセス】

下記のコードもしくはURLから、申込フォームにてご登録ください。

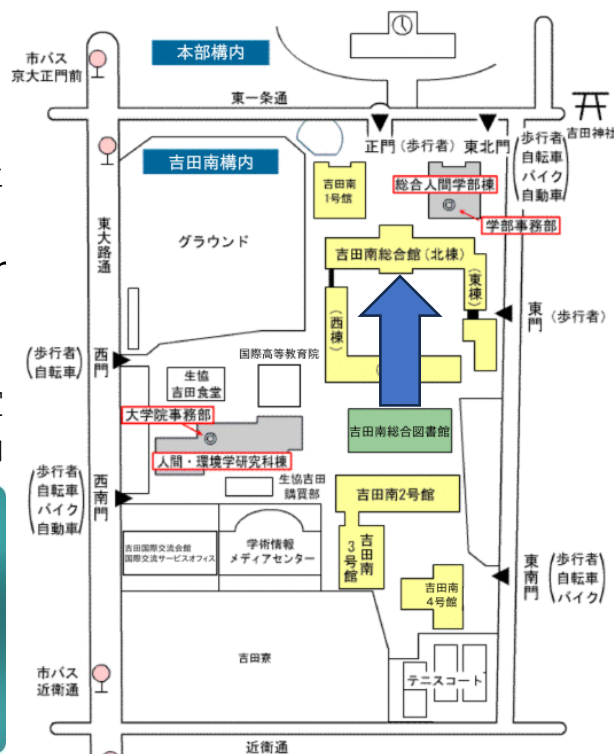
<https://forms.cloud.microsoft/r/E3mK9KVzr>

※会場のみ定員50人（先着順）となります。定を超えた場合は、オンラインでのご参加をご案内します。

※当日の様子を写真撮影し、広報等に利用させていただきます。予めご了承ください。

締切：7月23日（木）

シンポジウム「学校と生活体験」申し込みフォーム



日本生活体験学習学会は、子どもの生活体験に関心をもつ実践者と研究者によって構成されています。社会教育・学校教育・保育・自然体験活動・子育て支援など、様々な分野の実践者と、教育学・社会学・心理学といった多様な専門領域の研究者が垣根を越えて、生活体験学習の啓発・普及・研究活動に取り組んでいます。

お問い合わせ：滋賀大学教育学部 山本一成
issei-y@edu.shiga-u.ac.jp